

J-6

漢方療法により延命効果又は寛解が得られた末期癌症例について

○原中瑠璃子, 劉 林, 高瀬英剛, 原中勝征
医療法人杏仁会大圃病院

【目的】末期癌の患者さんとの出会いの壮絶な体験を通して、我々医師として限界を知らされることしばしばである。癌に対する中医学根本原則である「扶正祛邪」という観点から全人医療的立場で漢方療法を行うことは、免疫系機序の関与も証明されつつある現在重要な医療の一つと考える。今回西洋医学的に治療困難と診断された症例について漢方治療を中心に西洋医学を組み合わせ、延命効果または寛解状態を得た症例を報告する。

【対象】（症例1）大正9年生 女性 結腸癌，肝転移（症例2）大正6年生 女性 胃癌，膵臓癌（症例3）大正1年生 男性 肺癌，肝転移

【成績】（症例1）他院にて結腸癌切除，肝転移部切除11ヵ月目に来院。来院時CEA 10.5, CA19-9 260.9と上昇，CT，エコー所見より再発と診断，手術不能の状態であったため，六味地黄丸（ツムラ），大建中湯（ツムラ）内服，レンチナン点滴により8週後，CEA 4.9, CA19-9 16.1に低下，貧血および全身状態も改善，現在も同上治療中である。（症例2）内視鏡，エコーにて胃癌（腺癌），膵臓癌が認められたが他の合併症の存在もあり，また本人，御家族の希望により手術は行わず，六味地黄丸（ツムラ），人參養榮湯（ツムラ），レンチナン点滴を行った。治療開始4ヶ月後にCA19-9 457が218に低下，貧血など全身状態も改善現在同上治療を継続中である。（症例3）検診により肺癌（扁平細胞癌），肝転移発見され来院。X-P，CT所見より手術不能と診断し，人參養榮湯（ツムラ），レンチナン点滴施行1ヵ月後CTにて肺病変軽度改善。咯血時は芎帰膠艾湯（ツムラ）内服。以後同上治療を継続し痛みや苦しみを訴えることなく12ヵ月後に永眠された。以上3症例はエキス製剤とレンチナン組み合わせの症例であるが，他に生薬加減により末期癌寛解症例についても一部紹介する予定である。

【考察】私どもは実験系および臨床例においていくつかの漢方方剤における抗腫瘍効果について報告してきたが，その機序の一部として免疫系の関与（サイトカイン誘導能など）が考えられた。今回は患者さんの病証を大切に，個人に合わせた「同病異治」「異病同治」の治則をもとに治療を行い，延命効果または寛解を得た症例を報告した。これらの機序として宿主の免疫系の関与が考えられ，今後癌の免疫療法としての漢方治療はより重要であることが示唆された。